

熊本商工会議所・第52回 経営動向調査

平成21年6月期 結果報告書

業況DI ▲39.8で6期（1年半）ぶりに改善

～建設業（土木）以外の6業種が改善、来期は全業種とも改善の見通し～

調査結果のポイント

全業種の業況DI値は▲39.8となり、前回（平成21年3月期）調査の▲55.3より15.5ポイント改善。平成19年12月期以来6期ぶりの改善となった。

前回調査から業況が改善したのは、6業種でサービス業が▲27.3ポイント（+28.0ポイント）、飲食業が▲35.7ポイント（+21.4ポイント）、小売業が▲47.5ポイント（+19.8ポイント）、卸売業が▲36.0ポイント（+17.6ポイント）、建設業（職別・設備）が▲42.3ポイント（+15.4ポイント）、製造業が▲58.6ポイント（+0.7ポイント）となった。一方、悪化を示したのは、建設業（土木）の1業種のみで▲21.1ポイント（▲14.4ポイント）であった。

今回の調査で業況を全体的に見ると、全業種で製造原価・仕入単価の下落が続き、建設業（土木）以外の6業種で売上高が改善したことで、業況DIは▲39.8と6期ぶりに改善した。中でも、前回の調査で過去最低の水準に近づいたサービス業は▲27.3ポイントで28.0ポイントも大きく改善した。また、同じく前回の調査で来期の業況見通しで過去最低を示していた飲食業は▲35.7ポイントで21.4ポイントも改善した。その一方、建設業（土木）は年度末受注の反動で▲21.1ポイント（▲14.4ポイント）で再び悪化に転じた。

来期（平成21年7～9月）の業況見通しについては、全業種の業況DI値は▲19.1と依然厳しい見通しではあるもののマイナス幅は縮小、全ての業種で明るい業況見通しとなった。中でも、飲食業は+7.1と調査開始時以来13年ぶりにプラスに転じて過去最高となった。

調査先からの意見として、個人消費の低迷と低価格化による利幅の減少、公共工事の減少など先行きへの不安を持つ声が多い一方で、新商品の開発や新事業の展開で好転を期待する声や、政府の景気対策の効果を期待する声も聞かれた。

- ・ 調査対象期間 平成21年4月～6月（平成21年度 第1四半期）
- ・ 調査期間 平成21年6月15日（月）～6月19日（金）
- ・ 調査対象数 熊本市内 小規模企業 288事業所
- ・ 回答数 217事業所（回答率75.3%）

※ 小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業をいう。

《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	37	29	78.4
建設業（土木）	20	19	95.0
建設業（職別・設備）	34	26	76.5
卸売業	34	25	73.5
小売業	72	59	81.9
飲食業	21	15	71.4
サービス業	70	44	62.9
合計	288	217	75.3

※ DI値（業況判断指数）について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表すものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(21年3月期)調査と比較した概況

【全業種】

製造原価・仕入(原材料等)単価は改善し、販売(受注)・客単価も少し改善した。
売上高は大きく改善し、採算(営業利益)も改善した。

〈製造業〉

製造原価、販売(受注)単価ともに少し改善した。
売上高はやや改善し、採算(営業利益)も少し改善した。

〈建設業(土木)〉

仕入単価は大きく改善したものの、受注単価は悪化した。
売上高は大きく悪化し、採算(営業利益)も悪化した。

〈建設業(職別・設備)〉

仕入単価、受注単価ともにやや改善した。
売上高は改善し、採算(営業利益)は横ばい。

〈卸売業〉

仕入単価、売上単価ともに大きく改善した。
売上高、採算(営業利益)ともに大きく改善した。

〈小売業〉

仕入単価はやや改善し、客単価はわずかに改善した。
売上高、採算(営業利益)ともに大きく改善した。

〈飲食業〉

仕入単価、客単価ともに改善した。
売上高は改善したものの、採算(営業利益)はやや悪化した。

〈サービス業〉

仕入単価(材料等)は改善し、客単価もわずかに改善した。
売上高、採算(営業利益)ともに大きく改善した。

業種別の業況一覧

上段＝対前期比
下段＝対前年同期比

業種	今回調査 (21年6月期)	前回調査 (21年3月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	▲ 39.8	▲ 55.3	15.5
	▲ 47.7	▲ 61.3	13.6
製造業	▲ 58.6	▲ 59.3	0.7
	▲ 72.4	▲ 67.9	▲ 4.5
建設業 (土木)	▲ 21.1	▲ 6.7	▲ 14.4
	▲ 15.8	▲ 26.7	10.9
建設業 (職別・設備)	▲ 42.3	▲ 57.7	15.4
	▲ 50.0	▲ 75.0	25.0
卸売業	▲ 36.0	▲ 53.6	17.6
	▲ 56.0	▲ 50.0	▲ 6.0
小売業	▲ 47.5	▲ 67.3	19.8
	▲ 50.8	▲ 73.5	22.7
飲食業	▲ 35.7	▲ 57.1	21.4
	▲ 28.6	▲ 69.2	40.6
サービス業	▲ 27.3	▲ 55.3	28.0
	▲ 40.5	▲ 53.2	12.7

来期(21年7~9月期)の業況見通し

全業種における来期(21年7~9月期)の業況見通しのDI値は▲19.1となり、21年3月期の前回調査の業況DI値▲45.1と比較して26.0ポイント改善した。

7業種の全てで前回調査より改善するという結果となり、飲食業でプラス80.0ポイント、サービス業でプラス38.5ポイント、建設業(識別・設備)でプラス32.0ポイントと大きく改善する明るい業況見通しとなった。中でも、飲食業は+7.1と調査開始時の平成8年9月期(+3.8ポイント)以来13年ぶりにプラスに転じて過去最高となった。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業種	今回調査 (21年6月)	前回調査 (21年3月)	今回調査との比較
全業種	▲19.1	▲45.1	26.0
製造業	▲32.0	▲57.1	25.1
建設業 (土木)	▲10.5	▲15.4	4.9
建設業 (職別・設備)	▲16.0	▲48.0	32.0
卸売業	▲24.0	▲36.0	12.0
小売業	▲28.8	▲38.6	9.8
飲食業	7.1	▲76.9	84.0
サービス業	▲10.3	▲48.8	38.5